

文部科学省 科学技術人材育成費補助事業

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）

事業報告書

平成 29 年度

平成 30 年 3 月

立命館大学

男女共同参画推進リサーチライフサポート室



ご挨拶.....	1
1. 本事業の概要	
● 事業の目標.....	2
● 男女共同参画推進リサーチライフサポート室の推進体制	3
● 室員名簿	3
● 外部評価委員会の設置	4
2. 平成 29 年度事業実施報告	
(1) 意識改革と情報発信	
● 幹部を対象としたダイバーシティ勉強会の開催	
➢ 「～Beyond the Bias and Barriers～ 女性活躍推進のこれからを考える」	5
➢ 「理工系大学におけるグローバル人材育成 ～若手・女性・グローバル人材等の育成を通じた多様性推進と大学の活性化～」	6
➢ 「イノベーションと女性活躍推進」	7
● シンポジウムの開催	
➢ 「研究者のライフ・イベントとワーク・ライフ・バランス」	8
➢ 白川静博士没後十年企画「漢字と書－日中韓のはざまと女性－」	10
➢ イノベーションストリーム KANSAI 2018	11
● ホームページリニューアル	12
● 広報誌「News Letter Vol.2、Vol.3」の発行	12
● 国内外先進事例調査	13
(2) 女性研究者の採用・上位職登用	
● 女性研究者の採用比率向上・在職比率向上のための取組み	14
● 理工系女性教員メンター制度の整備	14
(3) 教育・研究と家庭生活との両立	
● 学内保育所の設置検討	15
● 「研究支援員制度」の導入	16
● 研究費による学会・研究集会等参加に伴う臨時的な「託児費用」の執行	16

(4) 教育・研究の推進と研究力の向上

- 休業中における研究費の取扱等の変更 17
- 学外研究制度（若手区分およびワークライフバランス区分） 17
- 科研費特別講演会「科研費改革 2018 の狙いと将来展望 - 知のブレークスルーを目指して -」開催 18
- 学術英語論文のための基礎講習会開催 19
- 「ライスボールセミナー」における女性研究者発表月間の設定 19
- マネジメント研修「研究キャリアパス支援セミナー」開催 20

(5) 女性研究者の裾野拡大

- 交流の場「立命研究者の会」開催 21
- 女性研究者ロールモデル集「研究日和 Vol.1、Vol.2」の発行 23

3. 参考資料

- 広報誌「News Letter Vol.2、Vol.3」 25



立命館大学
副学長
男女共同参画推進
リサーチライフサポート室
室長
田中 弘美

立命館大学は、平成 28 年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」に採択されました。この事業は、研究環境のダイバーシティを高め、優れた研究成果の創出につなげるため、女性研究者のライフイベントとワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の整備や女性研究者の研究力向上のための取組、女性研究者の積極採用や研究中断、あるいは離職した女性研究者の復帰・復職支援及び女性研究者の上位職への積極登用に向けた取組等を支援するものです。

本学では、平成 28 年 4 月に施行された「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」を受けて「男女共同参画推進委員会」が立ち上がりました。また、本事業の採択を受けて、平成 28 年 12 月に男女共同参画推進リサーチライフサポート室を立ち上げ、吉田学長による「立命館大学 男女共同参画宣言」の発表を皮切りに、「男女共同参画基本方針」や「行動計画」を発表し、支援体制の整備や具体的な施策の取組を行ってきました。また、この取組が契機となり、平成 29 年 9 月には内閣府「企業主導型保育事業」へ申請し、平成 30 年 9 月に衣笠キャンパスとびわこ・くさつキャンパスにおいて、本校初となる学内保育所の開設が実現化される運びとなりました。

本事業への取組を通じて、女性に限らず、様々な背景、文化、出身、年齢、性別、人種などから多様な人材が分け隔てなく採用され、自由闊達に自分の考えを打ち出し、議論できる場が与えられ、実力に応じて平等な機会が得られる大学の環境構築に向けて、今後も様々な活動を進めていきたいと考えています。

※本事業における女性は、戸籍上の性別のみを指すものではありません。

1. 本事業の概要

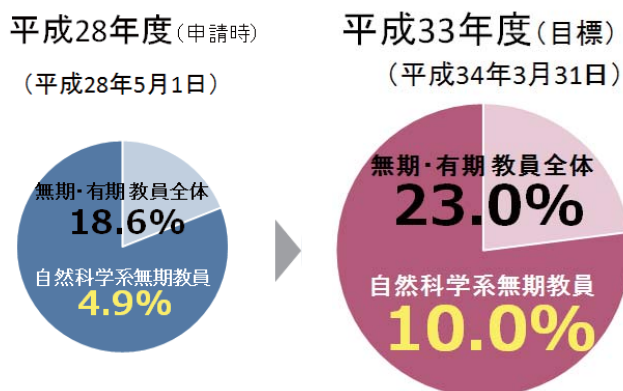
事業の目標

立命館学園は、平成 32 年を見据えた学園中期計画で、グローバル・多文化社会の中、学生・生徒・児童の多様な成長に責任を持ち、「多様性から創造性、イノベーションを創出する学園」となることを大きな目標として掲げています。

様々な多様性のなかでも「女性教員比率の向上」について男女共同参画の観点から極めて重要な課題として位置付けており、文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」事業の採択を契機に、女性研究者の積極的な採用と研究環境整備につとめています。

■ 文部科学省科学技術人材育成費補助事業 「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」

- 採択期間：平成 28 年～33 年度（6 年間）
- 助成内容：女性研究者のライフイベント（育児・介護等）及びワークライフ・バランスに配慮した研究環境整備、女性研究者の研究力向上のための取組及び上位職への積極登用に向けた取組を支援する。
- 女性教員在職比率目標：



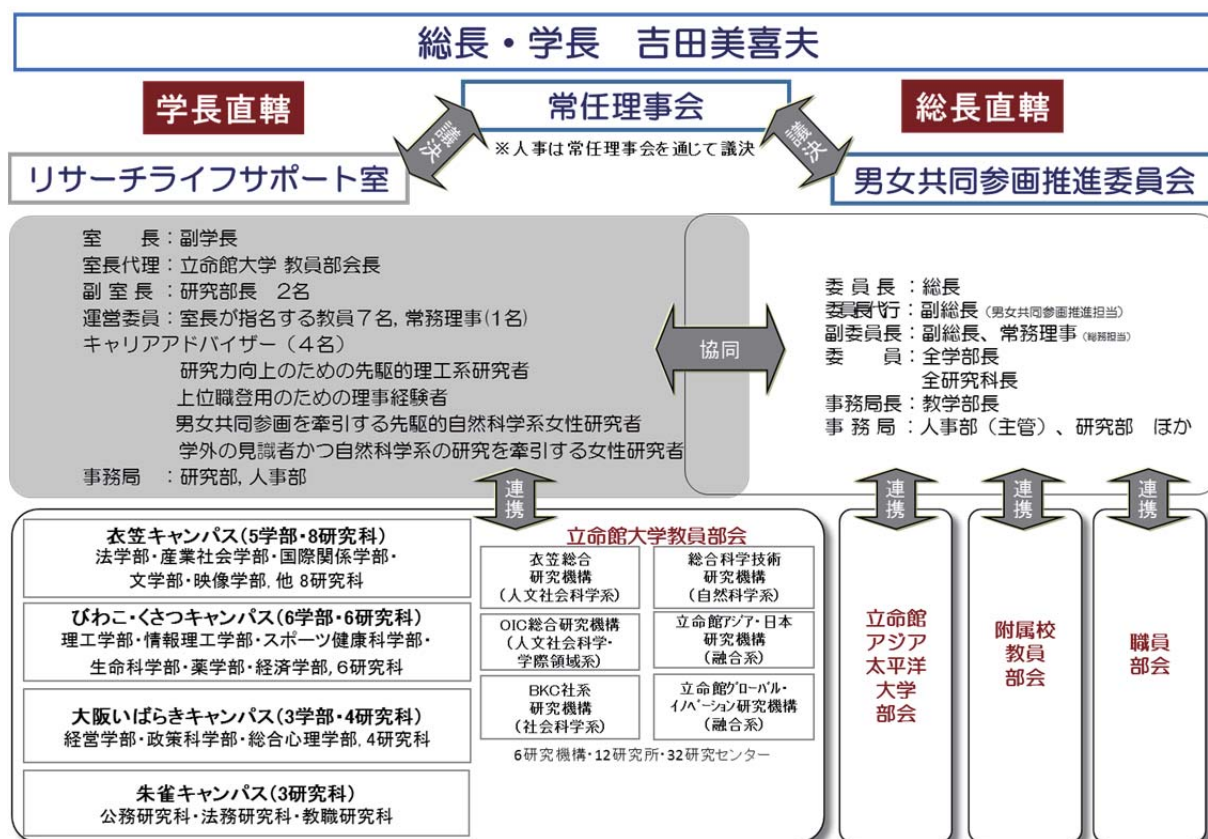
※自然科学系＝理工学部、情報理工学部、生命科学部、薬学部、(スポーツ健康科学部)

立命館大学 男女共同参画基本方針

1. 男女共同参画の実現に向けた意識改革と情報発信
2. 人的構成における男女格差の是正、女性研究者の採用・上位職登用の推進
3. 学修・教育・研究・就業と家庭生活との両立支援
4. 国際的視点を含めた男女共同参画に資する教育・研究の推進と研究力の向上
5. 女性研究者の裾野拡大の推進

1. 本事業の概要

男女共同参画推進リサーチライフサポート室の推進体制



室員名簿

室長	田中弘美：副学長・情報理工学部教授
室長代理	篠田博之：研究部長・情報理工学部教授
副室長	二宮周平：男女共同参画推進委員会立命館大学教員部会長・法学部教授 平岡和久：研究部長・政策科学部教授
運営委員	西川幸穂：常務理事 (総務担当) 松原洋子：衣笠総合研究機構長・先端総合学術研究科教授 鈴木桂子：衣笠総合研究機構特別招聘研究教員 (教授) 海老久美子：スポーツ健康科学部教授 仲谷善雄：情報理工学部長・情報理工学部教授 永井 清：教学部長・理工学部教授 平井慎一：理工学部教授
キャリアアドバイザー	志磨慶子：前男女共同参画推進リサーチライフサポート室室長 高橋政代：総合科学技術研究機構招聘研究教員 (客員教授) 相馬芳枝：総合科学技術研究機構上席研究員 白井良明：総合科学技術研究機構上席研究員
事務局長	野口義文：研究部事務部長
副事務局長	櫻井裕美：人事部次長
事務局	BKC リサーチオフィス (主管)、衣笠リサーチオフィス OIC リサーチオフィス、給与厚生課、研究企画課

1. 本事業の概要

外部評価委員会の設置

他大学の男女共同参画推進担当役員や企業の女性研究者支援専門家等の外部有識者に外部評価委員となっただいています。

【実施内容】

日 時：平成 30 年 3 月 13 日（火） 13：00～15：00

会 場：立命館大学朱雀キャンパス 703 会議室

出席者：

【外部評価委員会委員】

委員長	工藤眞由美氏	大阪大学	理事・副学長
委員	石井 実 氏	大阪府立大学	理事・副学長
	大西 辰彦氏	京都産業大学	理事・副学長
	上瀧恵里子氏	九州大学	男女共同参画推進室 教授
	武田 雅子氏	株式会社クレディセゾン	取締役

【本学関係者】

市川 正人（理事・副総長（教学・大学院担当））
田中 弘美（副学長・情報理工学部教授・リサーチライフサポート室室長）
篠田 博之（研究部長・情報理工学部教授・リサーチライフサポート室室長代理）
平岡 和久（研究部長・政策科学部教授・リサーチライフサポート室副室長）
二宮 周平（立命館大学男女共同参画推進委員会教員部会長・法学部教授）
永井 清（立命館大学男女共同参画推進委員会事務局長・理工学部教授）
志磨 慶子（学校法人立命館 前常務理事・キャリアアドバイザー）
野口 義文（研究部 事務部長・リサーチライフサポート室事務局長）
櫻井 裕美（人事部 次長・リサーチライフサポート室副事務局長）

概要：平成 30 年 3 月 13 日（火）に朱雀キャンパス 703 会議にて、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」に係る第 1 回外部評価委員会を開催しました。取組施策等ならびに数値達成度を鑑み、外部評価委員からは最高評価となる S 評価を頂きました。外部評価委員長の大阪大学・工藤眞由美副学長からは、「短期間の間に飛躍的に成果を出した大学の統率性に感銘する。引き続き、推進するスピード感と統率力を継続して進めて欲しい。また、各種行っているセミナーについては、アンケート等を実施しセミナー後の意識変化が分かるエビデンスを出していけるよう取り組んで頂きたい。」また、同じく委員である京都産業大学・大西辰彦副学長より「京都産業大学は男女共同参画を推進する中で、男女共同参画推進部局と学部・研究科との意識共有、学部・研究科での取り組みが大きな課題となったが、事業期間となる 3 年間で意識共有が図られ参画意識を高めることができ、各学部・研究科で男女共同参画が推進されたと感じている。立命館大学においてもモチベーションの向上・維持に取り組み、全学課題として継続して取り組んでいく姿勢を重要視して欲しい。」とご意見を頂きました。



2. 平成 29 年度事業実施報告

(1) 意識改革と情報発信

幹部を対象としたダイバーシティ勉強会の開催

全学課題の議決機関である常任理事会メンバーを対象に、全3回にわたり幹部セミナーを実施し、意識改革を進めました。

「～Beyond the Bias and Barriers～ 女性活躍推進のこれからを考える」

実施内容

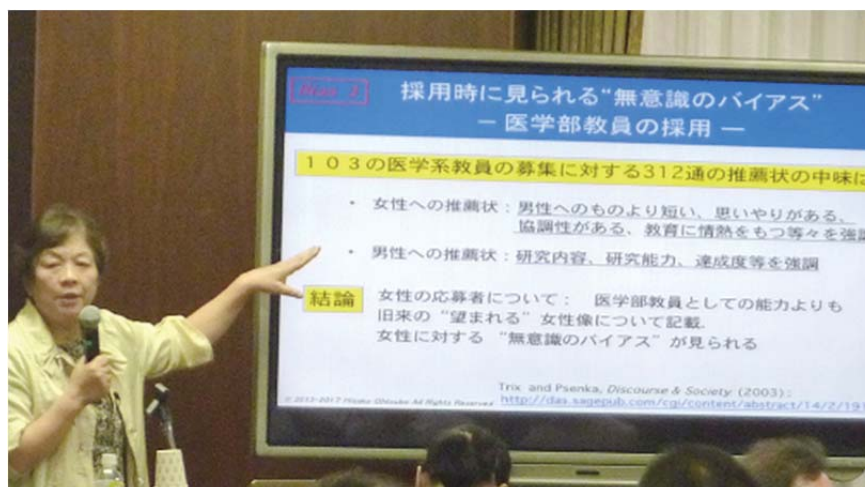
日時：平成 29 年 7 月 12 日（水） 15：30～16：30

会場：立命館大学朱雀キャンパス 中川会館 601 会議室

対象：常任理事会メンバー

参加人数：約 80 名

概要：常任理事会メンバーを対象に、日本大学薬学部薬学研究所上席研究員 大坪久子先生をお招きし、「～Beyond the Bias and Barriers～ 女性活躍推進のこれからを考える」を開催しました。本講演では、人事選考の際に起こる「無意識のバイアス」についてのお話のほか、優秀な教員を採用していくための「人事選考 10 の心得」など、今後の教員採用にも関わるとのお話を伺うことができました。また、吉田学長ならびに男女共同参画担当の渡辺副総長より、各教授会でも本講演内容を活用し、共通理解を深めたいとのメッセージが発信されました。質疑応答では「女性管理職を増やすために大学は何をすればよいか」などの質問が寄せられ、参加者との活発な意見交換が行われました。



2. 平成 29 年度事業実施報告

「理工系大学におけるグローバル人材育成 ～若手・女性・グローバル人材等の育成を通じた多様性推進と大学の活性化～」

実施内容

日時：平成 29 年 11 月 10 日（金） 9:15～10:30

会場：立命館大学朱雀キャンパス 701 会議室 ※メイン会場

衣笠キャンパス 至徳館 3階304 東会議室

びわこ・くさつキャンパス アクロスウィング 7階テレビ会議室

大阪いばらきキャンパス A棟北ウィング1階102 会議室

対象：常任理事会メンバー

参加人数：約 80 名

概要：常任理事会メンバーを対象に、芝浦工業大学 学長 村上雅人先生をお招きし、「理工系大学におけるグローバル人材育成 ～若手・女性・グローバル人材等の育成を通じた多様性推進と大学の活性化～」を開催しました。村上先生が学長を務める芝浦工業大学は、学長の強力なリーダーシップのもと先進的な男女共同参画、ダイバーシティ研究環境整備を推進しています。ご講演冒頭では、高校時代の留学体験や多国籍な研究仲間との研究生生活のご紹介があり、ご自身の経験に裏打ちされたダイバーシティ環境への信念をお話し頂きました。また、後半では「男女共同参画の取組みが大学においてどのような影響をもたらすのか」「理工系女性教員の増員、また女性研究者の活躍に向けて芝浦工業大学にて取り組んでいる内容、効果」等、本学教職員にとっても非常に興味深い内容のお話がありました。



2. 平成 29 年度事業実施報告



「イノベーションと女性活躍推進」

実施内容

日時：平成 29 年 12 月 6 日（水） 15:30～17:00

会場：立命館大学朱雀キャンパス 中川会館 601 会議室

対象：常任理事会メンバー

参加人数：約 80 名

概要：常任理事会メンバーを対象に、芝浦工業大学 学長補佐 國井 秀子先生をお招きし、「女性活躍推進－ポジティブアクションと事例－」をテーマにダイバーシティ学習会を開催しました。この学習会は女性研究者の活躍推進における課題について理解を深めるべく本学の役職者を対象に実施したものです。

本講演では、女性教員が少なかった芝浦工業大学においてなぜ女性教員比率の目標値を達成できたのか学内での具体的な取り組みや支援についてお話いただきました。

また、質疑応答では「リーダーに必要な素養とは何か」などの質問が寄せられ、これからの時代に求められるリーダーの要件について國井先生のお考えをお聞きすることができました。

2. 平成 29 年度事業実施報告



シンポジウムの開催

「研究者のライフ・イベントとワーク・ライフ・バランス」

実施内容

日時：平成 29 年 12 月 10 日（日）10：00～16：00

会場：立命館大学大阪いばらきキャンパス

立命館いばらきフューチャープラザ カンファレンスホール

対象：研究者・学生から大学/研究機関職員、行政、企業の方々、一般の方々

参加人数：約 100 名

司会：立命館大学人間科学研究所所長／先端総合学術研究科 教授 松原 洋子

プログラム：

10:00 開会挨拶

10:10～12:00 [第 1 部]

基調講演 「女性研究者とワーク・ライフ・バランス」

講師 仲 真紀子（立命館大学総合心理学部教授）

講演 「立命館大学の女性研究者支援の取組」

講師 田中 弘美（立命館大学男女共同参画推進リサーチライフサポート室室長／情報理工学部教授）

12:15～13:45 [第 2 部] ポスターセッション

14:00～15:50 [第 3 部]

パネルディスカッション「研究者とワーク・ライフ・バランスの今後」

問題提起 筒井 淳也（立命館大学産業社会学部教授）

パネリスト 筒井 淳也

仲 真紀子

朴 沙羅（神戸大学大学院国際文化学研究科講師）

安田 裕子（立命館大学総合心理学部准教授）

司 会 松原 洋子

15:50～16:00 閉会挨拶 松原 洋子

概要：12 月 10 日（日）に大阪いばらきキャンパス立命館いばらきフューチャープラザカンファレンスホールにて、2017 年度の本学人間科学研究所年次総会として公開シンポジウム「研究者のライフ・イベントとワーク・ライフ・バランス」を開催しました。人間科学

2. 平成 29 年度事業実施報告

研究所は、女性研究者、若手研究者が多く活躍しており、人の生涯発達やキャリア分岐、結婚・妊娠・出産・子育てに関する研究プロジェクトを数多く推進しており、研究職にとって重要な課題であるワーク・ライフ・バランスの問題を考えるため、女性研究者支援に取り組むリサーチライフサポート室と協力し実施しました。シンポジウムでは、「女性研究者とワーク・ライフ・バランス」の著者である仲真紀子・立命館大学総合心理学部教授の基調講演に続き、本学の女性研究者支援の取組紹介、筒井淳也・立命館大学産業社会学部教授の問題提起に始まるパネルディスカッションなどが行われ、他大学の研究者・教職員など 100 名近くの参加者から活発な質問や意見が飛び交いました。昼休憩を兼ねたポスターセッションでは、研究所内の若手研究者を中心に多彩な研究プログラム発表を行い有意義な研究交流が行われ、大変盛況に終わりました。



立命館大学総合心理学部主催

研究者のライフ・イベントとワーク・ライフ・バランス

研究職にさまざまなライフ・イベントも経験するなかで、実際にどのような困難に遭遇し、どのように乗り越えてきたのか、また、今後の研究と生活の両立に悩む方、ワーク・ライフ・バランスの困難、その乗り越え方などもぜひお話しください。「研究職と生活の両立」の困難である、皆さんも経験します。

参加無料 一般公開 出入り自由

12.10 2017 [SUN]
10:00-16:00

立命館大学 大阪いばらきキャンパス

12月10日(日) 本館南棟101号セミナーホール
12月10日(日) 10:00-16:00

講演者 「女性研究者とワーク・ライフ・バランス」著者 仲真紀子(立命館大学総合心理学部教授)

パネリスト 「研究者とワーク・ライフ・バランスの今後」

立命館大学総合心理学部
立命館大学産業社会学部



2. 平成 29 年度事業実施報告

白川静博士没後十年企画「漢字と書－日中韓のはざまと女性－」

実施内容

日時：平成 29 年 12 月 16 日（土）11：00～13：00

会場：立命館大学衣笠キャンパス 創思館カンファレンスルーム

対象：一般の方々

概要：白川静博士没後十年企画として、平成 29 年 12 月 16 日（土）に衣笠キャンパス創思館カンファレンスルームにて、日中韓に関する女性研究者による鼎談が開催されました。

（主催：立命館大学白川静記念東洋文字化研究所 共催：リサーチライフサポート室）、三カ国における漢字事情や白川文字学などについて、楽しく語っていただき、また、華雪氏には漢字への理解や思いを込めた書の揮毫実演をしていただきました。



白川静博士没後十年企画 記念講演会
漢字と書
- 日中韓のはざまと女性 -

2017年12月16日【土】11:00-13:00
立命館大学衣笠キャンパス創思館カンファレンスルーム

【主催】立命館大学白川静記念東洋文字化研究所
【共催】立命館大学共同事業推進室リサーチライフサポート室



2. 平成 29 年度事業実施報告

イノベーションストリーム KANSAI 2018

実施内容

日時：平成 30 年 2 月 26 日（月）13：00～17：00、27 日（火）10：00～17：00

会場：グランフロント大阪 コングレコンベンションセンター

対象：一般の方々

参加人数：両日合計で 1,315 名

概要：関西の研究機関や大学等で実用化に向けて研究開発されている新技術や新製品について、初めて触れる体験イベント「イノベーションストリーム KANSAI 2018」に本学が出展しました。立命館大学が独自に組織する分野横断型研究組織「立命館グローバル・イノベーション研究機構（R-GIRO）」とそこから派生し、センター オブイノベーションプログラム（COI）に採択された「アクティブ・フォー・オール拠点」、文部科学省グローバル・アントレプレナー育成促進事業（EDGE プログラム）に採択された「立命館イノベーション・アーキテクト養成プログラム」の成果を中心に「立命館ライフイノベーションの創出に向けた取り組み」をテーマに立命館大学の研究者・学生・企業がイノベーション創出に向けてどのように研究・開発に取り組んできたかを体感していただきました。女性研究者支援に取り組むリサーチライフサポート室からは、本学で活躍する理工系女性研究者のパネルを出展し、本学の研究環境の土壌作りとも言える事業の取組について紹介しました。

イノベーションストリーム KANSAI 2018
～うめきた2期から未来へ～

うめきた2期
関西発！
最先端の新技術・新製品 展示体験会
展示の数量とつなぐイノベーション・イノベーションの未来
うめきた2期開始！

出展者によるセミナーも開催

平成30年2月26日（月）13：00～17：00
27日（火）10：00～17：00

入場無料
（展示料あり）

グランフロント大阪 コングレコンベンションセンター
ホールB・C（A～M、F～S）

出展者によるセミナー、詳細は要項をご覧ください。

働き方の
多様性

DIVERSITY
FOR ALL
RESEARCHER

“ 誰かの役に立つことが
研究の最大の喜び ”

岡田 志麻
立命館大学
国際経営学部
経営学専攻
経営学系
准教授

女性研究者のよさ
学びたい

「人の役に立つ」研究が
大げに

人との出会いが
研究になる

UNIVERSITY
INTRODUCTION



2. 平成 29 年度事業実施報告



ホームページリニューアル

立命館大学男女共同参画推進リサーチライフサポート室の Web ページに本大学の福利厚生制度を紹介したコンテンツを増やす等、ページの充実をはかり、大幅なリニューアルを実施しました。学内制度や日々の関連ニュースの見やすさが改善されました。



広報誌「News Letter Vol.2、Vol.3」の発行

研究支援員などの新制度の紹介ならびに介護休暇制度などの福利厚生制度についても詳しく掲載したニュースレターを 2号・3号と計 2 回発行し、内容は Web ページにも掲載し広く周知を図りました。



2. 平成 29 年度事業実施報告

国内外先進事例調査

「リサーチライフサポート室」の活動内容を有効なものとしていくため、国内外先進事例の調査を行い事業内容・支援内容を精緻化しました。

調査先	調査・訪問日
ジェンダーサミット 10	平成 29 年 5 月 25 日
日経ウーマノミクスシンポジウム ～ダイバーシティ研究環境整備と女性研究者の未来～	平成 29 年 5 月 29 日
大阪大学 ダイバーシティ教育研究環境実現シンポジウム ～ロールモデルの多様化と理工系女性研究者の育成～	平成 29 年 9 月 20 日
大阪大学 学内保育所設置に関するヒアリング	平成 29 年 10 月 10 日
神戸大学 学内保育所の視察および設置に関するヒアリング	平成 29 年 10 月 13 日
第 15 回 男女共同参画学協会連絡会シンポジウム ～ダイバーシティ推進における産学の取り組み～	平成 29 年 10 月 14 日
大阪大学 「理系女子学生のキャリアパスを考える」セミナー	平成 29 年 10 月 26 日
大阪府立大学 中間総括シンポジウム ～「凜として、しなやかに、たくましく」～	平成 29 年 11 月 17 日
大阪大学シンポジウム ～ダイバーシティが拓く、関西の未来～	平成 30 年 2 月 5 日
大阪市立大学ダイバーシティ研究環境実現キックオフシンポジウム ～南近畿からの発信：女性研究者の地平を拓く、未来を創る～	平成 30 年 2 月 20 日
平成 29 年度科学技術人材育成費補助事業フォーラムにて本大学の 取組みを「事例報告」紹介	平成 30 年 3 月 2 日

2. 平成 29 年度事業実施報告

(2) 女性研究者の採用・上位職登用

女性研究者の採用比率向上・在職比率向上のための取組み

平成 33 年度に大学全体の女性教員比率目標を達成するために、学長のリーダーシップの下「男女共同参画推進委員会」において、各学部・研究科における具体的な女性教員採用計画および具体的に取り組む施策内容を検討し進捗を確認しました。

女性教員比率目標達成に向けた 2 大取組み

女性教員の採用を促進するために、申請時には予定に無かった女性限定公募(8 件)および自然科学系 2 学部における定年退職教員補充の 2 年前倒し女性限定人事(5 名分)を行ったことにより、平成 30 年度末(平成 31 年 3 月 31 日)の目標値を早期に達成しました。

また、平成 30 年 1 月に本大学初の自然科学系女性副学長(ダイバーシティ&インクルージョン担当)が就任しました。

		平成 28 年度 (申請時) (平成 28 年 5 月 1 日)	平成 30 年度 (平成 30 年 4 月 1 日 予定)	平成 33 年度 (目標) (平成 34 年 3 月 31 日)
採用比率		—	32.0%	27.0%
在職比率	無期・有期教員全体	18.6%	21.0%	23.0%
	自然科学系無期教員	4.9%	7.9%	10.0%

理工系女性教員メンター制度の整備

自然科学系の若手や新任の女性教員の教育及び研究立上げを支援する「女性教員メンター制度」を新規導入(平成 29 年 12 月 1 日)し、理工学部の女性准教授 1 名が本制度を活用しました。

制度概要

対象者	平成 29 年 4 月に着任した理工系の新任女性教員、若手女性研究者(講師、助教、専門研究員等) ※平成 30 年度以降は、①赴任間もない(3 年以内)新任女性教員、②若手女性研究者(講師、助教、専門研究員等)を対象に実施いたします。(予定) ※本制度における女性は、戸籍上の性別のみを指すものではありません。
主な相談内容	① 研究者としてのキャリア形成に関すること ② 教育・研究活動や大学の業務に関すること ③ ワークライフバランスに関すること など



2. 平成 29 年度事業実施報告

(3) 教育・研究と家庭生活との両立

学内保育所の設置検討

女性研究者積極採用施策を進める中で、学部・研究科より着任後の女性教員の研究環境整備として「学内保育所の設置」の多くの声が寄せられました。学内保育所の設置は、単なる福利厚生課題ではなく、教職員が教育・研究・就労の場において最大限に力を発揮し、「選ばれる学園」として働き続けるための基盤として、男女共同参画推進リサーチライフサポート室が学内に強く働きかけていた課題です。当初の計画にはありませんでしたが、学内保育所具体化ワーキングを設置し、ワーキングのもとで院生・全教職員アンケートおよび保育所ワークショップを開催し、ニーズの高さを確認しました。また、学内保育所を保有する他大学講師を招いた講演会の実施、視察等を行いつつ平成 29 年 9 月に内閣府「企業主導型保育事業」へ申請し、衣笠キャンパスならびに、びわこ・くさつキャンパスへの設置を決定しました。大阪いばらきキャンパスについては、平成 30 年開設に向けた検討が引き続きおこなわれます。開設により教職員が、結婚、妊娠、出産、子育てというライフステージにかかわらず働き続けやすい研究環境の実現に向け、大きな一歩となりました。

学内保育所の概要（予定）	
●時 間	衣笠キャンパス至徳館 2 階 BKC キャンパスコアステーション 2 階
●時 間	8：00～19：00（標準 11 時間）※延長保育は検討中
●開所日	月～金 ※祝日授業日にも開所予定 ※土日については学内暦等を勘案し開所することがある
●定 員	衣笠キャンパス 19 名 BKC キャンパス 19 名



「研究支援員制度」の導入

妊娠・育児・介護等ライフイベント中の研究継続支援のため研究支援員を配置する「研究支援員制度」を導入しました。この制度は、ライフイベント中も研究を継続できるよう「妊娠・育児」「介護」区分を設け「研究支援員」の雇用経費を1期（6ヶ月）につき上限30万円まで助成するものです。1期では9名が「育児」区分にて採択され、2期では13名が「育児」区分にて採択されました、平成30年度以降も継続して実施します。

制度概要

申請資格	<p>【出産・育児】</p> <p>① 妊娠している教員・研究者</p> <p>② 小学校3年生以下の子を養育する教員・研究者のうち、配偶者が常態的にフルタイムで労働している、または一人親である教員・研究者</p> <p>【介護】</p> <p>① 要介護状態(負傷、疾病または身体上もしくは精神上の障害により、2週間以上の期間にわたり常時介護を必要とする状態)にある家族を介護する教員・研究者</p>
------	---

研究費による学会・研究集会等参加に伴う臨時的な「託児費用」の執行

育児と研究活動の両立が困難な場合（未就学児や小学校低学年の子どもを養育する教員・研究者のうち配偶者が常態的にフルタイムで労働している、または一人親で日常的に養育を担っている教員・研究者）を主として想定し、研究費による学会・研究会参加に伴う「臨時的な託児関連費用」の執行の取扱いを整理しました。

<対象>

「研究費執行ガイドブック」に基づき研究部が管理する以下枠内の研究費において、当該研究課題の遂行上必要な学会・研究集会等参加に伴う臨時的な「託児費用」は執行します。

※学会・研究集会等主催側が公式提供する臨時託児サービスの執行を原則とする。

- ・ 文部科学省・日本学術振興会「科学研究費助成事業－科研費－」の直接経費
- ・ 臨時的な「託児関連費用」の執行について、事業元使用ルール等において支出対象から除外されていない外部資金
- ・ 研究高度化推進制度（研究推進プログラム（科研費獲得推進型）等）
- ・ 研究環境整備費
- ・ 個人研究費（資料費）、個人研究費（研究旅費）

2. 平成 29 年度事業実施報告



(4) 教育・研究の推進と研究力の向上

休業中における研究費の取扱等の変更

休職期間中であっても、業務である研究活動に必要な能力を維持するための「自主的な研究」の範囲においては、研究費の執行、科研費等の公的研究費、学内研究費、受託・共同研究、奨学寄付金などの学部資金への申請および受入が可能です。本制度は平成 28 年度より導入しており、前年度申請資格を付与した女性教員 2 名が平成 29 年 4 月に科学研究費助成事業・若手研究 B、研究成果公開促進費(学術図書)にそれぞれ採択されました。なお、平成 30 年 11 月の科学研究費助成事業申請においてもライフイベント中の女性教員 1 名に対し申請資格を付与しました。

学外研究制度（若手区分およびワークライフバランス区分）

ライフイベント後の研究回復措置として、ライフイベントにより既に決定していた学外研究（サバティカル）が実施できなかった者を対象とした「専任教員学外研究制度（ワークライフバランス区分）」の周知徹底を行っています。平成 29 年は、女性研究者 1 名が申請し採択され、平成 29 年度 1 年間において学外研究を実施しました。なお、本区分への予算割付額を増額し、支援環境の充実を図りました。

2. 平成 29 年度事業実施報告

科研費特別講演会

「科研費改革 2018 の狙いと将来展望 - 知のブレークスルーを目指して -」開催

実施内容

日時：平成 29 年 9 月 27 日（水）

会場：立命館大学大阪いばらきキャンパス B 棟 4 階 研究会室 1 <メイン会場>

びわこ・くさつキャンパス コアステーション 2 階 大会議室

衣笠キャンパス 至徳館 3 階 304 東会議室

朱雀キャンパス 6 階 602 会議室

参加人数：教員、研究員、職員 97 名（男性 64 名、女性 33 名）

概要：研究部（共催：リサーチライフサポート室）では、9 月に始まった科研費申請受付にあわせて科研費特別講演会を開催しました。講師には仲真紀子先生（総合心理学部 教授）をお迎えし、科研費改革 2018 の狙いや将来展望について、各分野の研究者がどのように新制度の趣旨を理解し、申請戦略をデザインするべきなのかについてお話を頂きました。仲先生は独立行政法人日本学術振興会学術システム研究センター主任研究員として、新たな審査体制や研究種目の構築など、公募・審査制度全般の制度設計に深く関与された経験をお持ちで、ご自身もこれまでに数多くの科研費を保有されています。「科研費学内公募説明会」も同時に開催し（日本語 3 回、英語 1 回）、合計 183 名の方が参加しました。

本学の採択件数に占める女性研究者のシェア（女性比率）は 20.6%で、初めて 20%台を突破し 3 年連続増加となっています。また、平成 29 年度と平成 26 年度比較すると、3.0 ポイントの伸びになっており、主な私立大学の中で高い伸びを記録しています。



科研費ニュース #02 科研費

2017.8.4

ついに9月から公募がスタート！ 科研費シーズン突入！

9.27 Wed. **科研費特別講演会**
科研費改革 2018 の狙いと将来展望
— 知のブレークスルーを目指して —

9.27 Wed. **学内公募説明会**

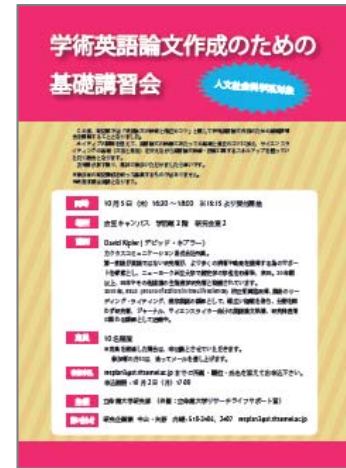
9月27日 [水] 16:00-17:55
9月28日 [木] 16:00-17:55
9月29日 [金] 16:00-17:55



2. 平成 29 年度事業実施報告

学術英語論文作成のための基礎講習会開催

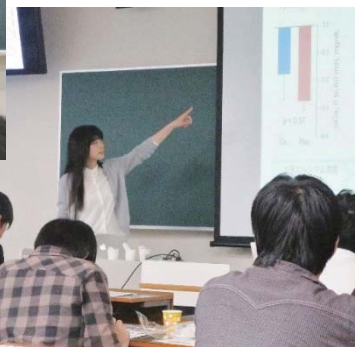
研究費獲得に向けた申請調書作成にあたりベテラン教員や採択率上位者による調書の点検・ブラッシュアップを行う「ライティングサポート制度」を実施しました。英語論文の執筆、投稿のスキルアップを図る「学術英語論文作成のための基礎講習会」(11名)を実施したほか、平成 30 年度科研費申請においては、19名の教員へアドバイザーを委嘱し、計 31 名の研究者に対し調書のブラッシュアップを行いました。



「ライスボールセミナー」における女性研究者発表月間の設定

平成 19 年度より、セメスター期間に週 1 回の頻度で、若手研究者が自身の最新の研究成果の発表を行い、プレゼンカ等をトレーニングする場であるランチオンセミナー(通称ライスボールセミナー)を実施し、女子学生・女子大学院生の学習意欲向上と研究職へのキャリア形成意識の高揚、また、発表を行う女性研究者自身の研究へのモチベーション向上に繋げています。

平成 29 年度は「女性研究者月間」を設定し、びわこ・くさつキャンパスにおいて、『ダイバーシティが生むイノベーション～女性研究者による発表～』を共通テーマに、4 回にわたり女性研究者が発表しました。また、衣笠キャンパスにおいて 5 回、大阪いばらきキャンパスにおいて 3 回にわたり女性研究者が発表し、学生・院生への研究職への意識醸成を図りました。



2. 平成 29 年度事業実施報告

マネジメント研修「研究キャリアパス支援セミナー」開催

実施内容

日時：平成 30 年 2 月 23 日（金） 14：00～15：30

会場：立命館大学衣笠キャンパス 至徳館 3 階 301 会議室

参加人数：教員、研究員、院生、職員 25 名（男性 9 名、女性 16 名）

概要：教員・院生・職員を対象に、研究者の研究リーダーとしての能力を開花させ、上位職への積極的な登用につなげるためのマネジメント研修「研究キャリアパス支援セミナー」を開講しました。第 1 回目は、衣笠総合研究機構長等様々なリーダーを担ってこられた松原 洋子先生（先端総合学術研究科教授）をお招きしライフイベント、研究、役職の両立についてお話いただきました。まず、松原先生からは、「研究者にはワーク（教育、校務）・ライフ（家事、育児、介護）・リサーチ（研究）の 3 つそれぞれが互いに深く関わっており、切り分けが難しい」ことなどが語られました。次にコメンテーターとしてご参加いただいた竹村 はるみ先生（文学部教授）、リサーチライフサポート室室長の田中 弘美先生（情報理工学部教授）からは、「キャリアを積んでいくに従い、役職や学会運営等重要な役割も任されるようになりさらに多忙になる。そんな時こそ学会にも参加し学外でのつながりをもつことで、似たような境遇の研究者と出会え、アドバイスも聞けるのでワーク・ライフ・リサーチのバランスが取りやすくなる。科研費は継続的に獲得してほしい。申請には手間も時間も要するが、最初に計画を詳しく立てることで結果的にリサーチの効率が良くなる。」「科研費は積極的に獲得し、1 年に 1 回は海外へ出て最先端の情報を知ってほしい。ライフイベント等で一時的に業績を上げられなくてもその後必ず挽回できる。」などのアドバイスをいただきました。参加者からは仕事を持ち帰ってせざるを得ない状況の大変さや時間の捻出方法などについて相談が寄せられるなど、活発な意見交換が行われました。



2. 平成 29 年度事業実施報告

(5) 女性研究者の裾野拡大

交流の場「立命研究者の会」開催

第 1 回 実施内容

日時：平成 29 年 6 月 23 日（金）12：20～14：30

会場：立命館大学びわこ・くさつキャンパス コアステーション3階「校友サロン」

参加人数：教員、研究員、院生、学部生、職員 29 名（男性 6 名、女性 23 名）

概要：教員、研究員、院生、学部生、職員を対象に、学部や学科、キャンパスを超えたネットワーク形成や、文理融合・複合領域における共同研究プロジェクトの創成等、研究交流の機会へとつながることを目指さず場として「立命研究者の会」を開催しました。第 1 部では、リサーチライフサポート室室長、田中弘美先生よりご挨拶があり、軽食を取りながらの和やかな交流会となりました。自己紹介の場では、参加者が男女共同参画について日頃感じていることを紹介し、それぞれの経験や思いを共有する機会となり大いに盛り上がりました。第 2 部では、鈴木桂子先生（衣笠総合研究機構 特別招聘研究教員〔教授〕）より「私のリサーチライフ」と題したご講演を頂きました。ご自身の経歴や経験をご紹介頂いた後、最後には後進の女性研究者へ向けて、先生のご専門である人類学の観点から「人によって真実は様々。自分の真実と選択肢を追求するとともに他者の真実も理解しようとし、寛容な社会を目指そう」というメッセージを頂きました。第 3 部の茶話会は、木村朝子先生（情報理工学部教授）に進行役を勤めて頂き、女性研究者の置かれた現状について、体験の紹介や活発な意見交換が行なわれました。世代を超えた意見交換により今後の女性研究者の研究環境整備について取り組むべき課題が多数見付き、この日のイベントは盛況のうちに幕を閉じました。



2. 平成 29 年度事業実施報告

第2回 実施内容

日時：平成 29 年 9 月 15 日（金）12：20～14：30

会場：立命館大学大阪いばらきキャンパス B 棟 5 階「クロノトポス」

参加人数：教員、研究員、院生、学部生、職員 21 名（男性 3 名、女性 18 名）

概要：開会挨拶 平岡 和久先生（リサーチライフサポート室 副室長）

講演 「私のリサーチライフ」

松原 洋子 先生（衣笠総合研究機構長・先端総合学術研究科 教授）

茶話会 「研究者として必要な研究環境とは、理想とする研究スタイルとは」

司会進行：矢藤 優子 先生（総合心理学部 教授）



第3回 実施内容

日時：平成 29 年 12 月 22 日（金）12：20～14：30

会場：立命館大学衣笠キャンパス「平井 嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム」

参加人数：教員、研究員、院生、学部生、職員 35 名（男性 8 名、女性 27 名）

概要：開会挨拶 田中 弘美 先生（リサーチライフサポート室 室長）

講演 「私のリサーチライフー食から健康を考えるー」

海老 久美子 先生（スポーツ健康科学部 教授）

茶話会進行 竹中 悠美 先生（先端総合学術研究科 教授）



2. 平成 29 年度事業実施報告



女性研究者ロールモデル集「研究日和 Vol.1、Vol.2」の発行

裾野拡大活動の一環とし、ロールモデル集を「研究日和」と題して刊行しました。(平成 30 年 2 月) 1・2号目は特集を「理系女性研究者」に絞り紹介、今後は男性研究者や人文社会科学系研究者も加えつつ掲載し、立命館の学生・院生ならびに中高生(特に附属校)にとって将来を考えるきっかけとなる冊子として展開していきます。



Case #01
未開拓の分野を切り開く研究に挑む
小池 千恵子
理学部 数学科 教授

Case #02
運い、頼んだ 大学・修士課程
小池 千恵子
理学部 数学科 教授

Case #03
アメリカ留学で研究者として飛躍
小池 千恵子
理学部 数学科 教授

Case #04
ハード大学の大学院生の研究論文にはとまらないうれしさと、研究業績が伸びるわけではない、それはひとえに24時間の勤務的なものです。1日24時間、1週7日も研究以外のことを考える暇がない。1日24時間、1週7日も研究以外のことを考える暇がない。1日24時間、1週7日も研究以外のことを考える暇がない。

Case #05
研究先で女性研究者との絆を深めた
小池 千恵子
理学部 数学科 教授

Case #06
研究先で女性研究者との絆を深めた
小池 千恵子
理学部 数学科 教授

Case #07
研究先で女性研究者との絆を深めた
小池 千恵子
理学部 数学科 教授

Case #08
研究先で女性研究者との絆を深めた
小池 千恵子
理学部 数学科 教授

Case #09
研究先で女性研究者との絆を深めた
小池 千恵子
理学部 数学科 教授

Case #10
研究先で女性研究者との絆を深めた
小池 千恵子
理学部 数学科 教授

Case #11
研究先で女性研究者との絆を深めた
小池 千恵子
理学部 数学科 教授

Case #12
研究先で女性研究者との絆を深めた
小池 千恵子
理学部 数学科 教授

參考資料

■ TOPIC #01

女性研究者支援の取り組みを行っています!

2016年12月に女性研究者の研究環境のサポートを目的として「リサーチライフサポート室」を開設しました。今回は目標や取り組み内容、今後の展開などについてご紹介します。

リサーチライフサポート室を開設した目的

立命館大学に在籍する多くの女子学生・院生の活躍を励ますことを第一の目的としています。それを実現するためには、身近なロールモデルとして女性教員がいきいきと輝いていることが大切だと考えています。リサーチライフサポート室では、女性教員の比率をさらに高めていくため、採用計画などの数値目標だけでなく、教育・研究とさまざまなライフイベントを両立しやすい環境整備を推進しています。

具体的な取り組みをはじめます

出産・育児・介護等のライフイベントと研究活動を両立できるよう「研究支援員制度」を2017年4月に新設しました。さらに、女性研究者の研究リーダーとしての能力を開花させ、上位職への積極的な登用に繋げるための「研究マネジメント塾」開設に向けた準備を現在進めています。

また、女性研究者の支援だけでなく、アンケートをとって要望を調査したり、セミナーを実施したりするなど、大学全体で課題や実態を共有していきたいと考えています。

ダイバーシティ研究環境づくりにむけて

多様な人材のなかで一番身近で、数の多いのが女性です。女性研究者の割合を増やし、努力が正当に評価される制度や仕組みを整え、女性教職員が働

きやすく意欲を持って活躍できる職場環境をつくり出すことが、全体的なダイバーシティ環境の整備につながると考えています。

“多様な視点が活かされる組織づくり”が求められている今、それを実現できる企業および大学が、社会からも認められ、支持され、成長することができます。

女性に限らず、様々な背景、文化、出身、年齢、性別、人種などから多様な人材が分け隔てなく採用され、自由闊達に自分の考えを打ち出し、議論できる場が与えられ、実力に応じ平等な機会が得られる大学、職場環境づくりにむけ、今後も様々な活動を行ってまいります。

※本事業における女性は、戸籍上の性別のみを指すものではありません。



リサーチライフサポート室
室長 田中 弘美

■ TOPIC #02

第1回「立命研究者の会」を開催しました(6月23日)

6月23日(金)、第1回交流イベント「立命研究者の会」をBKCコアステーション3階「校友サロン」にて開催しました。このイベントは「先輩教員との交流」、「教員同士のコミュニケーション」を図るべく、学部や学科、キャンパスを超え様々なコミュニケーションや情報交換を行うための「場」として企画したものです。当日は、教職員、院生、学部生を含めた合計30名ほどが参加されました。

第1部では、リサーチライフサポート室田中弘美

室長の挨拶のあと、軽食を取りながらの和やかな交流会となりました。自己紹介の場では、参加者が男女共同参画について日頃感じていることを紹介し、それぞれの経験や思いを共有する機会となりました。

第2部では、鈴木桂子先生(衣笠総合研究機構特別招聘研究教員[教授])より「私のリサーチライフ」と題してご講演を頂きました。ご自身の経歴や経験をご紹介頂いた後、後進の研究者へ向けて、先生のご専門である人類学の観点から「人によって真実は様々。自分の真実と選択肢を追求するとともに、他者の真実も理解しようとし、寛容な社会を目指しましょう」というメッセージを頂きました。

第3部の茶話会は、木村朝子先生(情報理工学部教授)のもと、体験の紹介や活発な意見交換が行われました。世代を超えた意見交換により、この日のイベントは盛況のうちに幕を閉じました。



／ OIC、衣笠キャンパスでも順次開催! ／

第2回「立命研究者の会」開催予告!

- 日時/2017年9月15日(金)
12:20-14:30 入出自由
- 会場/大阪いばらきキャンパス
B棟5階「クロノトボス」
- プログラム/
[第1部] 開会挨拶 平岡 和久先生
[第2部] 講演「私のリサーチライフ」
松原 洋子先生
[第3部] 茶話会
「研究者として必要な研究環境とは、
理想とする研究スタイルとは」
矢藤 優子先生

参加費
無料

事前申込
不要

院生・学生等も
参加可能

詳しくは、リサーチライフサポート室HPをご覧ください。
<http://www.ritsumei.ac.jp/research/rsupport/>

研究支援員制度 第2期募集開始

▶ 申請資格を拡充しました

出産・育児・介護等のライフイベントと研究活動の両立を支援するため「ライフイベントに関わる研究支援員制度」の第2期募集を2017年7月31日から開始しました。この制度は、ライフイベント中も研究を継続できるよう「研究支援員」の雇用経費を1期(6ヶ月)につき上限30万円まで助成するものです。第1期の助成は6月1日から開始されており、現在9名の方にご利用いただいています。

第2期からは申請資格を拡充しました。募集要項は、研究部HPに掲載されていますのでご確認ください。

募集内容は以下の通りです。

申請資格

〈出産・育児〉

- ① 妊娠している教員・研究者
- ② 小学校3年生以下の子を養育する教員・研究者のうち、配偶者が常態的にフルタイムで

労働している、または一人親である教員・研究者

〈介護〉

- ① 要介護状態(負傷、疾病または身体上もしくは精神上の障害により、2週間以上の期間にわたり常時介護を必要とする状態)にある家族を介護する教員・研究者

※この制度は、女性活躍推進法の趣旨に則り、女性の積極的な応募を歓迎します。

申請期間と助成期間

〈申請期間〉

2017年7月31日(月)～9月8日(金)

〈助成期間〉

2017年10月1日(日)～2018年3月31日(土)

助成内容

- ・ 申請者1人あたりの1期の助成額の上限は30万円とする。(交通費含む)
- ・ 研究支援員は、上限額範囲内であれば複数名

雇用ができる。

- ・ 研究支援員の1期の雇用期間は最長6か月とする。
- ・ 助成額の範囲内で、申請者が雇用対象者の職種(以下、研究支援員の資格ご参照)・時間単価・勤務時間を選定し申請する。

研究支援員の資格

当該研究課題の支援業務を遂行するために必要な専門知識又は技術を有する者。

研究支援員の業務内容

- ① 研究者の実験・調査の補助
- ② データの入力・分析
- ③ 文献の収集・整理
- ④ 学会発表の資料作成
- ⑤ その他研究についての補助

助成の決定にあたって

助成は、審査を行ったうえで決定します。

ワークライフバランス実現のために 各学部 研究科の 教授会実施時間

リサーチライフサポート室は
ワークライフバランスの実現を応援しています。

会議時間の設定はその要素の1つです。
ワークライフバランスの実現のためには、
たとえば、会議は17:30終了のような取組と
資料削減や事前配布等の
様々な工夫が求められます。
いかがでしょうか。

人文社会科学系

	時間
法学部・研究科	14:45-
経済学部・研究科	14:45-
経営学部・研究科	14:40-
産業社会学部・社会学研究科	14:30-16:30
文学部・研究科	14:00-16:00
国際関係学部・研究科	13:30-
政策科学部・研究科	14:00-
映像学部・研究科	14:40-
総合心理学部	15:00-
経営管理研究科	14:00-
法務研究科	14:00-
公務研究科	12:30-

自然科学系

	時間
応用人間科学研究科	13:00-
先端総合学術研究科	13:00-
言語教育情報研究科	13:00-14:30
教職研究科	12:30-
理工学部・研究科	16:30-17:30
情報理工学部・研究科	16:30-
生命科学部・研究科	17:00-
薬学部・研究科	17:00-
スポーツ健康科学部・研究科	15:30-17:00 (17:00)
テクノロジー・マネジメント研究科	15:00-

*議題により終了時間は変更



立命館大学 リサーチライフサポート室

お問い合わせ先

E-mail: rsupport@st.ritsumeai.ac.jp

- 衣笠キャンパス TEL: 075-465-8306 内線: 511-2375
- びわこ・くさつキャンパス TEL: 077-561-2631 内線: 515-6507
- 大阪いばらきキャンパス TEL: 072-665-2570 内線: 513-3521

www.ritsumeai.ac.jp/research/rsupport/



■ TOPIC #01

学内保育所が開設されます!

Information /

2018年秋頃の開設を目指し検討が行われていた学内保育所について、開設が正式に決定しました。学内保育所の設置は、単なる福利厚生課題ではなく、教職員が教育・研究・就労の場において最大限に力を発揮し、「選ばれる学園」として輝き続けるための基盤として、リサーチライフサポート室が実現に向けて学内に強く働きかけていた課題です。具体化の足がかりとして2017年7月に学内保育所開設具体化ワーキンググループの設置、9月には内閣府「企業主導型 保育事業助成金」への申請など準備が急ピッチに進められていました。この内閣府「企

業主導型 保育事業助成金」により、整備費の3/4、運営費の80%程度が補助されることから、学費を主な財源とする本学にとりたいへん有力な支援策となるものです。2018年秋に開所されるのは、衣笠キャンパスとびわこ・くさつキャンパスの2キャンパスで、大阪いばらきキャンパスについては、開設に向けた検討が引き続き行われます。

開設により幼い子供をもつ教職員が、結婚、妊娠、出産、子育てというライフステージにかかわらず働き続けやすくなり、本学にとっても非常にメリットのある環境となります。

学内保育所の概要(予定)

- 場 所 衣笠:至徳館 2階
BKC:コアステーション 2階
- 時 間 / 8:00-19:00(標準11時間)
※延長保育は検討中
- 開所日 / 月～金
※祝日授業日にも開所予定
※土日については学年暦等を
勘案し開所することがある
- 定 員 / 衣笠:19名 BKC:19名

■ TOPIC #02

幹部
セミナー

理工系大学におけるグローバル人材育成

～若手・女性・グローバル人材等の育成を通じた多様性推進と大学の活性化～



本学常任理事会メンバーを対象としたダイバーシティ学習会(2017年11月10日開催)に芝浦工業大学 学長 村上雅人先生をお招きし、「理工系大学におけるグローバル人材育成～若手・女性・グローバル人材等の育成を通じた多様性推進と大学の活性化～」と題してご講演を頂きました。

ご講演冒頭では、高校時代の留学体験や多国籍

な研究仲間との研究生活など、ご自身の経験に裏打ちされたダイバーシティ環境への信念をお話し頂きました。また、後半では「男女共同参画の取組みが大学においてどのような影響をもたらすのか」、「理工系女性教員の増員、また女性研究者の活躍に向けて芝浦工業大学にて取り組んでいる内容、効果」等、本学教職員にとり非常に参考となる内容でした。

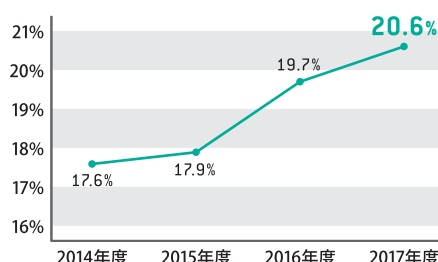
■ TOPIC #03

2017年度科研費 本学女性研究者のシェア20%台突破!

文部科学省より2017年度の科研費の配分結果が公表され、本学の状況は、新規応募件数683件(全国30位)、新規採択件数189件(全国25位)、新規課題と継続課題を併せた採択件数は564件の結果となり、2012年度から5年連続全国26位だった「採択件数(新規+継続)」が、初めて全国25位となりました。

本学の採択件数に占める女性研究者のシェア(女性比率)は20.6%で、初めて20%台を突破、3年連続増加となっており、リサーチライフサポート室として特筆すべき結果となりました。

本学採択件数に占める女性比率の推移



採択件数に占める女性比率の主要私大間比較

大学名	2017年度
同志社大学	21.5%
立命館大学	20.6%
慶應義塾大学	19.1%
関西学院大学	18.6%
関西大学	17.9%
早稲田大学	17.5%
日本大学	17.3%
近畿大学	14.9%
全国平均	20.9%

仕事と生活の両立を応援します

妊娠・出産・育児の例

育児のために勤務時間を調整したい

中学校就学前の子を養育する教職員は、育児のための勤務時間短縮(無給)を受けることができます。(30分単位で1日最大2時間)

子供が熱を出した!

看護休暇(特別有給休暇)を利用しましょう。(対象となる子が1人の場合年度内7日以内、2人以上の場合年度内10日以内)

男性向け

パートナーの妊娠出産期を支えたい

配偶者出産休暇(特別有給休暇)を利用できます。(第1子2日以内、第2子以降5日以内)

家族の介護のため休みを取りたい

介護休暇
要介護状態にある家族を介護する教職員は、介護休暇(特別有給休暇)を取得することができます。(対象1人5日以内、2人以上10日以内)

介護の例

介護のために勤務時間を調整したい

勤務時間短縮(無給)を申請することができます。(利用開始から3年間、30分単位で始業後および終業前に通算2時間を上限として短縮)。
※条件は雇用形態によって異なります

介護休業

長期の休みを取りたい場合は、介護休業適用を受けることができます。(休業発令から通算93日まで有給(休業給)、94日目以降無給、取得上限通算365日)

妊婦向け

妊娠したので健診のため通院が必要

妊婦健診のための通院時間保障を申請することができます。

育児産休中も研究費の申請をしたい

休職期間中であっても、一定条件の下であれば研究費の申請・執行・受入が可能です。詳しくは各キャンパスリサーチオフィスにお問い合わせ下さい。

教員・研究者向け

ベビーシッター・一時預かり保育・ホームヘルパーを利用したい!

業務の都合により家庭での保育、介護ができない場合、ベビーシッターや一時預かり保育、ホームヘルパーの利用費用を補助します。
※条件は雇用形態によって異なります
(中学校就学の始期に達するまで/要介護状態の家族介護期間 年間上限 60,000円)

任期の有無にかかわらず、以上の制度を利用できます。詳しくは人事WEB、リサーチライフサポート室HPをご覧ください。

男女共同参画推進リサーチライフサポート室の2017年度活動報告

リサーチライフサポート室が開設されて1年あまりがたちました。今年度は、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」の2年目の年となり、本格的な男女共同参画の取組みに着手、本学の意識が大きく変化してきたことを感じる1年となりました。事業3年目に向け、引き続き精力的な取り組みを続けてまいりますので、教職員のみならずのご理解とご協力をよろしくお願い致します。

2017年度の主な活動

1. 意識改革と情報発信

- 幹部を対象としたダイバーシティ勉強会の開催
 - ①男女共同参画の我国の取組と進展について
講師:九州大学 男女共同参画推進室 教授 上瀧恵里子氏
 - ②アンコンシャス・バイアスと意識改革について

- 講師:日本大学薬学部薬学研究所 上席研究員 大坪久子氏
- ③理工系私立大における意識改革と進展について
講師:芝浦工業大学 学長 村上雅人氏
- ④産業界と大学を比較した意識改革と進展について
講師:芝浦工業大学 学長補佐 國井秀子氏
- 広報誌「News Letter」、リーフレットの発行、ロールモデル集の発行、HPの内容拡充



2. 研究力の向上

- 理工系女性教員メンター制度、コンシェルジュサービス等の新任教員サポート開始

3. 両立支援

- 学内保育所設置に向けた取組み
- 「研究支援員制度」の導入

4. 女性研究者の採用・上位職登用

- 定年退職教員補充の2年前倒し人事ならびに女性限定公募の実施
- 公募要領における女性の積極的採用の記載等のポジティブアクションの実施

5. 女性研究者の裾野拡大

- 交流の場「立命研究者の会」開催
- ライスボールセミナーにおける女性月間の設定



立命館大学 男女共同参画推進リサーチライフサポート室

お問い合わせ先

E-mail: rsupport@st.ritsumei.ac.jp
 □びわこ・くさつキャンパス TEL: 077-561-2631 内線: 515-6500
 □衣笠キャンパス TEL: 075-465-8306 内線: 511-2375
 □大阪いばらきキャンパス TEL: 072-665-2570 内線: 513-3521

www.ritsumei.ac.jp/research/rsupport/





立命館大学 男女共同参画推進リサーチライフサポート室
〒525-8577 滋賀県草津市野路東 1-1-1

TEL: 077-561-2631

FAX: 077-561-2633

E-mail: rsupport@st.ritsumei.ac.jp

URL: www.ritsumei.ac.jp/research/rsupport/